

建設環境委員会行政視察報告書（令和 8 年 5 月 11 日）

日 時：令和 8 年 5 月 11 日（月）
視 察 先： 東京都立砧公園・世田谷区立岡本いこいのもり緑地 東京都立明治公園
視察事項： 「所管事務調査：公園・緑地及び樹木に関すること」 公園・緑地の先進地の現状について
内 容 「東京都立砧公園」 公園内にはアメリカスズカケノキやクヌギなどの大木を含む約 5,000 本の樹木が植樹されており、相次いだ倒木被害を受け、現在は安全確保のための樹木点検や一部エリアの立入制限がありました。これら高木の存在が広く日陰を作り出して、広い公園内であっても暑さは感じられませんでした。また園内にはインクルーシブ公園やバラ園も整備されており、年代を問わず憩える場となっています。 「岡本いこいのもり緑地」 閑静な住宅地の一角に存在しており、高中木に囲まれた地域のクーリングシェルの役割を担っています。井戸と手押しポンプがあり、緑地内は水はけの良好な排水構造となっています。 「東京都立明治公園」 1964 年東京オリンピックのメイン会場として整備され開園し、2024 年 1 月に都立公園として初の Park-PFI（公募設置管理制度）を活用し、東京のレガシーとなる公園を目指して大規模な再整備工事を完了しています。インクルーシブ広場、多目的な希望の広場、地域の緑地となる誇りの杜から構成されています。
視察を終えて 砧公園は、とにかく広く何もないことの良さが最大の特徴でした。高木によって作られる日陰の存在が涼しさを作り出しており、小さな子どもたちも強い日差しから避けて遊んでいました。今後はその日陰を作る高樹齢の高木の管理が大きな課題となると思います。 岡本いこいのもり緑地もまた、地域に親しまれる緑の空間となっており、水はけの良い構造は雨水対策の一助になっていると思われます。昨今のゲリラ豪雨の対策には、二箇所目、三箇所目緑地が望まれると思います。 2024 年完成の東京都立明治公園は、周囲の環境に合わせた設計のためか、または公園内に商業施設が存在しているためなのか、どこか人工的な印象が強く、当市が目指すものとは方向性が違う感じがしました。また、広さに対してトイレの数が多い反面、ベンチ等の休む場所は少なく、設計に対する考え方の違いがあることも感じました。